

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●高松宮記念はダノンスマッシュが優勝

3月28日(日)に行われた高松宮記念(G I)ではダノンスマッシュ(牡6歳/栗東・安田隆行厩舎)が優勝しました。同馬は前走・香港スプリント(G 1)を勝っていますが、JRAのG Iは初制覇。父ロードカナロアは2013年のこのレース優勝馬で、高松宮記念の父子制覇は2000年キングヘイロー&2009年ローレルゲレイロに次ぐ2例目のこととなります。また鞍上の川田将雅騎手(栗東・フリー)は、この勝利で史上9人目・現役5人目となるJRA重賞100勝を達成しました。

●角田大和騎手がJRA初勝利をあげる

3月27日(土)の2回中京5日・第5レースではカフジアスールが1着となり、同馬に騎乗した角田大和騎手(栗東・角田晃一厩舎)はJRA初勝利(43戦目)をあげました。

●杉山佳明調教師と畑端省吾調教師がJRA初勝利をあげる

3月27日(土)の2回中京5日・第9レースではエピローグが1着となり、同馬を管理する杉山佳明調教師(栗東)は、JRA初勝利(延べ16頭目)をあげました。翌28日(日)の2回中京6日・第6レースではゴーゴーレイワが1着となり、同馬を管理する畑端省吾調教師(栗東)もJRA初勝利(延べ9頭目)をあげました。

●ヤマニンアンプリメらの競走馬登録抹消

2019年JBCレディスクラシック(浦和・Jpn I)などの勝ち馬ヤマニンアンプリメ(牝7歳/栗東・長谷川浩大厩舎/JRA通算25戦6勝・地方10戦3勝)、2016年チャレンジC(G III)の勝ち馬マイネルハニー(牡8歳/美浦・栗田徹厩舎/JRA通算39戦5勝)は、3月4日(木)までに競走馬登録を抹消されました。ヤマニンアンプリメは北海道新冠町の錦岡牧場新和育成牧場で繁殖馬となり、マイネルハニーはJRA馬事公苑で乗馬となる予定です。

●アーモンドアイがH. H. シェイク・モハメド競馬優秀賞受賞

今年のH. H. シェイク・モハメド競馬優秀賞のうち、最優秀競走馬をアーモンドアイ、最優秀騎手をクリストフルメール騎手、最優秀馬主を(有)シルクレーシングが受賞しました。去年はドバイワールドCの中止により表彰も見送られたため、今年の各賞は2019年のドバイワールドCデー(3月30日)から2020年末までのG 1競走における成績などを考慮のうえで決定したものととなります。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●京浜盃はチサット。アランパローズは敗退【各地の主要3歳重賞】

京浜盃(3月24日、大井、1700^米)は、6番手前後から追いつけた3番人気のチサット(牡、父スマートファルコン)が、先に抜け出したイグナイターをゴール前で差し切って優勝、北海道から大井に転入以来3連勝を達成しました。全日本2歳優駿の覇者で5戦全勝のアランパローズは、スタートで挟まれて後方からの競馬を強いられ、9着に沈んで単勝1.7倍の支持に応えることができませんでした。土佐春花賞(3月21日、高知、1300^米)は、2番手を進んだ1番人気のハルノインパクト(牡、父ヴァンセンヌ)が4コーナー手前で抜け出して2馬身半差で完勝、2歳時の黒潮ジュニアチャンピオンシップに次ぐ重賞制覇を果たしています。若草賞(3月23日、名古屋、1400^米、牝馬)は、3番手から3、4コーナー中間で先頭に立った兵庫からの遠征馬パールプレミア(父エスポワールシチー)がそのまま押し切り、1番人気に応えました。

●マドラスチェックらが出走、4月7日のマリーンC(船橋)

マリーンC(Jpn III、4月7日、船橋、1600^米)は、マドラスチェック、昨年の覇者サルサディオネ(大井)、テオレマ、ダノンレジーナ(浦和)の順に有力視され、芝の重賞勝ち馬フェアリーポルカとレッドアネモスは、初のダートが課題となります。

※最新の開催情報は各主催者のホームページ等でご確認ください。

★海外競馬ニュース 文・秋山響★

●ドバイワールドCデー〜日本馬は4度の2着が最高成績

3月27日にドバイのメイダン競馬場でドバイワールドCデーが開催されました。日本からは6レースに計12頭が参戦。G 1ドバイワールドC(ダート2000^米)でチュウワウイザード、G 1ドバイシマクラシック(芝2410^米)でクロノジェネシス、G 1ドバイターフ(芝1800^米)でヴァンドギャルド、G 1ドバイゴールデンシャヒーン(ダート1200^米)でレッドルゼルがそれぞれ2着に入りましたが、勝利を手にすることはできませんでした。なお、この日のメインレースで総賞金1200万米^{ドル}(約12億3600万円/1米^{ドル}103円で換算)を誇るG 1ドバイワールドCを制したのはアメリカから遠征したミスティックガイド(牡4歳、父ゴーストザッパー、M. ステッドハム厩舎)。L. サエス騎手とのコンビで3番手で流れに乗ると、直線で抜け出してチュウワウイザードに3.75馬身差をつけて優勝。G 1初制覇を果たしました。また、準メインレースで総賞金500万米^{ドル}(約5億1500万円/1米^{ドル}103円で換算)のG 1ドバイシマクラシックは、ダートのサウジC(1800^米)優勝からの参戦となったイギリスのミシュリフ(牡4歳、父メイクピリーヴ、J. ゴスデン厩舎)がD. イーガン騎手を背に後方に控えると、直線で鋭く伸びて、クロノジェネシスとラヴズオンリーユー(3着)を外から交わして優勝。昨年G 1仏ダービー(芝2100^米)以来となるG 1・2勝目をあげました。